

1. 環境教育・環境学習の現状

豊かな自然に恵まれた八王子の環境を守り育て、私たちの身近な環境をより良くしていくためには、まずは一人ひとりが環境について考え、環境保全に対する意識を高め、自ら積極的に取り組んでいくことが大切です。

こうした生活の様式や習慣などを子どもの頃から意識付けすることはとても重要と考え、自然体験講座など地域に根ざした環境教育・環境学習を推進しています。また、環境教育・環境学習は、地域住民が一体となって環境への取り組みを推進するための基盤となります。

そこで、環境について関心を持つきっかけづくりと環境保全を行う団体等が地域に根ざした活動を展開するための拠点である「エコひろば」では、人材の育成や講座の開催、学校の環境教育支援、あるいは、情報提供や物品貸出など、市民ニーズに合わせた事業を展開しています。

2. 環境教育・環境学習の取り組み

(1) 環境学習の推進

ア. 環境の拠点

市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりと、環境保全活動団体などが地域に根差した活動を展開するための活動拠点として、17年1月、北野余熱利用センターに環境学習室「エコひろば」を開設しました。

環境に関わる講座やイベントなどを開催し、入場者は毎年増加し、25年度は延べ24,112名が入場しました。また、環境に関する図書や器材の貸し出しなども増えてきています。



「こども環境まつり」で人力発電体験

イ. 人材育成と環境指標

(ア) 環境診断士と環境指標「ちえっくどう」の普及・活用

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書として身近な環境診断「ちえっくどう」は、多くの市民に活用されています。

この「ちえっくどう」を用いて環境診断を行う際に指導・助言するための人材として14年度から環境診断士を養成し、約40名の皆さんが活躍しています。

環境診断士は、環境市民会議のメンバーとして地域に根ざした環境保全活動を行ったほか、環境フェスティバルでは、来場者500名を対象に簡易診断を行い、家庭での省エネ対策などについてアドバイスを行ったほか、25年度から3か年、中央大学と市との協働による地域診断を開始しました。また、その情報を、中央大学生が集約し、まとめ上げ、3者間での合同会議を実施しました。

(イ) 環境学習リーダー

環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、環境診断士と同様、14年度から環境学習リーダーを養成しています。

25年度は、半年間の研修受講後、新たに27名を認定し、現在187名となっています。

現在、各地区の環境市民会議に分かれ、その地区の特色を生かした様々な環境保全活動をリードするほか、小学校を対象に実施している環境教育支援事業にも積極的に参画しています。

(2) 環境学習・啓発活動の展開

農業体験では、農家を訪問して、いろいろな農作物の収穫体験を通して、農家との交流を深めることができる「農業ツアー」を7月27日に実施し、13組26名が参加しました。

林業体験では、その一環として、11月30日に山林で採取した「つる」を土台にしたクリスマス・リース作り等に24名が参加しました。

また、町会・自治会をはじめ、多摩川漁協八王子支部、河川管理者、教育機関、そして市が組織する

『八王子浅川子どもの水辺協議会』では、「ガサガサ探検隊」及び「水辺のかんきょう教室」を開催し、計303人に参加していただきました。

このほか、地域の自然環境を身近に感じてもらうと、市と環境市民会議が協働で行っている「自然体験講座」を計12回実施し、延べ382名が参加しました。

また、学習会などに市の職員が講師として伺い、講義や説明をする「はちおうじ出前講座」の環境関連の講座では、「自然は友だち」、「ごみの減量とリサイクル」、そして「サルとの知恵くらべ 八王子に生息する動物たち」など8講座を実施し、環境教育・環境学習を支援するとともに、環境意識の向上を図りました。

次に、産官学民の協働によるイベントとして、『はちおうじの環境をみる・きく・考える』をメインテーマに毎年環境月間である6月の第1土曜日に開催している「八王子環境フェスティバル」を6月1日に開催しました。

八王子駅北口西放射線ユーロードと南口のとの木デッキ上を会場に、延べ53,000人の来場者でにぎわいました。

当日は、南北合わせて200名を超える来賓者を迎えてのオープニングセレモニーを皮切りに、76の個人・団体が出展、全84ブースが会場を埋め尽くしました。

環境関連の出展はもとより、ご当地キャラクターやタレントが出演してのバラエティショー、燃料電池機関車を走行させての乗車体験など、子どもから大人まで一日環境に触れ合いながら楽しんでいただきました。



浅川の水生物を観察



熱心に取り組む子どもたち

(3) 環境教育の充実

ア. 「学校教育における環境教育基本方針」に基づく取り組み

未来を創る子どもたちが、身近な環境とのふれあいから環境に関心をもち、様々な体験を通して環境への理解を深め、環境保全への行動力がもてるよう育成することを目標に「学校教育における八王子市環境教育基本方針（第二次）」を平成22年に策定し、学校において環境教育を推進しています。

この目標を実現させるための取り組みとして、20年度から学校ごとの環境教育全体計画及び年間指導計画に基づいた環境教育の実践を行っています。また、夏季教員向け研修（パワーアップ研修）で、環境教育をテーマにした研修会を実施するとともに、環境教育の小中一貫教育指導資料の活用を推進し、教員の環境教育に関する指導力の向上を図り、教育活動を充実させました。

イ. 環境教育に関する冊子の作成

「学校教育における八王子市環境教育基本方針」に規定された環境教育目標である「環境問題に関心をもち、環境問題を解決する行動力を持った人の育成」を実現するため、「はちおうじこども環境白書」を作成し、市立の小学4年生に配付しました。「みどり」、「ごみ・資源」、「水」、そして「地球温暖化」について、身近な八王子の環境に興味を持ち、自ら取り組めることを考え、学校のみならず家庭での実践につなげることを目指します。

また、これまで同様、ごみの減量やリサイクルの意識を育てるための『きれいなまち八王子』と川への関心を高めるための『川と友だちになるノート』をそれぞれ作成し、配付しました。



はちおうじこども環境白書

(4) 地域との連携による環境教育

「エコひろば」では、市立の小中学校の総合的な学習の時間などを使って行われる環境学習において、環境教育支援を行っています。これは、地域特性を活かして活動している環境市民会議をはじめ、環境学習リーダーや環境診断士を学校に派遣し支援することにより地域の人材を活かした環境教育の充実を図っています。25年度は、小学校15校で実施し、延べ368名で支援を行いました。



環境教育支援事業「まとめ発表会」

(5) 環境情報の提供

ア. 「八王子市環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市の環境の現状及び環境基本計画に基づく施策の実施状況を明らかにしたもので、毎年発行しています。

また、これらに関わるデータは、データ集として同時発行しています。

イ. 「環境報告書」の発行

市内にある6ヶ所の環境施設について、事業活動における環境配慮の取組状況に関する説明責任を果たすため、環境配慮の方針、目標、取組内容及び実績を毎年度公表しています。

■環境報告を発行している施設

1	北野清掃工場	4	北野下水処理場
2	戸吹清掃工場	5	戸吹不燃物処理センター
3	北野衛生処理センター	6	プラスチック資源化センター

ウ. ホームページによる環境情報発信

市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

エ. 環境学習室「エコひろば」

「エコひろば」でもホームページ(<http://www.ecohiroba.jp/>)を開設し、講座の日程や環境教育支援事業の状況など、環境教育・環境学習に関わる情報を中心に提供しています。

3. 評価

ここでは、「教育・学習」の分野についての評価結果を掲載しています。

(評価の方法については14ページを参照)

評価 : ★ ★ ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

各施策において設定した目標を概ね達成できた。中でも、通常の講座はもとより、農林業体験や自然体験の講座などは、目標を大きく上回っており、市民の環境への関心や講座の充実が図れたことなどの結果であり、継続実施していきたい。

次に、発足して10年が経過した環境市民会議の課題となっている会員の拡充や地元町会等との協働した取り組みについて話し合わせ、その結果を25年度から実施することとなり、その支援強化に努めることとした。

また、LAS-E研修では職員の8割強が参加し、参加できなかった職員へは職場研修によりフォローするなど、環境負荷低減への取り組みの推進が図れた。

なお、環境学習リーダーの養成については計画目標を達成していることから延期としたが、人材補充のためにも、25年度に実施することとした。

<環境推進会議での相互評価>

農林業体験や自然体験の講座などは、市民が身近に参加でき、環境に接しられることから、永続的に開催していただきたい。

また、発足して10年が経過した環境市民会議の課題である会員の拡充や地元町会等との協働した取り組みについては、市も積極的に支援していただきたい。

なお、市も事業者として取り組んでいるLAS-Eでは、全ての職員が参加し、環境負荷低減への取り組みに努めていただきたい。

また、環境学習リーダーの養成講座については、人材づくりに最も適しているが、もっと気軽に受講できる講座を工夫するなど、人材育成に努めていただきたい。